

地域医療研修を振り返って

名古屋市立大学病院

私は2014年の9月から10月にかけて1ヶ月間、新城市民病院の総合診療科で研修に参加した。新城市民病院に興味を持ったのは、自然豊かな地域柄、休日に四季の綺麗な写真が撮れるのではないかと期待があったからだった。つまり研修自体には大きな期待をしていなかったのだが、それは実際に研修を受けてみて大いに裏切られた。

研修の前半では、大きな病院では体験できないような様々な経験をした。

作手診療所では患者さんのほとんどが高齢者で、新城市民病院よりもさらに僻地の医療の実態を垣間見ることができた。

老人保健施設のサマリアの丘では一人の医師が検査の十分できない施設で、病歴と診察から状況を判断していることを目の当たりにし、救急搬送の必要性を痛感した。

訪問看護や訪問リハビリを見学する機会にも恵まれた。普段は目にすることのない、自宅に退院してからの患者さんの様子を間近に見ることができたのは貴重な経験だった。

しかし何よりも印象に残ったのは総合診療科の先生の勉強に対する熱心さだった。毎日行われる朝の勉強会ではいつも新しい知識を仕入れることができた。

また外来の振り返りも毎日行われ、自分の診療の良かった点や改善点などを指導医以外の先生からもフィードバックしてもらうことができた。UpToDate勉強会やEBM勉強会などが定期的に行われており、僻地にありながらも常に最新のエビデンスに基づいた診療が行われていることには大変感銘を受けた。

指導の体制も充実していた。指導医の先生が個別に振り返りを行ってくださり、わからないことがある時にはいつも一緒に調べてくださった。

休日には名古屋に帰ることが多かったが、新城の自然を一瞬レフで撮影しに行くこともできた。

研修全体を通して、無駄な時間のない、非常に充実した一ヶ月になったと思う。このような研修なら何ヶ月でも受けたいと思うほどであった。それだけに、最後に体調を崩して研修に参加できない日があったのは残念でならない。

最後になりますが、お世話になった先生、職員の皆様、本当にありがとうございました。